

世界は科学的・靈的レベルで狂い始めている：この解釈で 納得できる

Infowars 等に報じられる異常な事例は、そのよう観点からしか理解できない

2021/09/02

Greatchain

Alex Jones に招かれて喋るゲストの一人は、「いったいこれは何が起きているのだ」と問われ、「それは紛れもない戦争だ」と答えた。これは正しいと思う。それは一国ではなく、世界の運命をかけた戦争で、コロナ騒動が収まればなくなるようなものでは、明かかない。しかしそれは、戦争という範疇に納まるものでもない。それはキチガイじみでいて、普通の人のやることでも、考えることでもない。

私はかつて、聖職者による異常なペドフィリアを観察していて、これは憑依現象に違いないと言ったことがある。特に、アイルランドで、大勢の人々が何者かに取りつかれたと感じて、有名なエクソシスト僧のもとに、次々に救助を求めて飛び込み、僧が悲鳴を上げた事件がそうだった。今、起きていることも、それに近いと思われる。特に驚いたのは、ジャーナリストの中野浩志さんが、ワクチンの是非をめぐって夫婦の争いが起こり、離婚がよく起きていると報告していることである。普通そんな問題で夫婦が離婚することはない。しかしこれは、私の身の上にも起こった。なぜか妻は、私の説得を絶対に聞かず、2度も注射をした。離婚はしていないが、その理由は今もわからない。何かにとりつかれ確信している者の言動だった。これはしかし、今、あらゆるレベルで、あたかも信仰上の争いのように起きているように思われる。カネだけで動いているとは思えない。

その最新の不思議な、両サイドに分裂する例を、いつものように Infowars から、タイトルと簡単な説明によって紹介する：――

「イタリアの教区が、(監督派) 教会の儀式のミサにも、ワクチン・パスポートが必要だと通告した」

これを「不気味で、非倫理的・差別的」だと言っている人々がいる。

「FDA が、ホワイトハウスの大慌てのブースター計画に、反逆する」

FDA で反逆が進行しつつある。これはバイデン政権が、12 歳というほとんどリスクのない子どもたちに注射し、すべての成人にブースターを打たせようとする、途方もない計画に対するものである。

「強力なインタビュー！ Dr. Judy Mikovits は、ファウチ博士が現在、発がん物質の注射を開発中と暴露」

ファウチ博士の僧侶姿のマンガあり。

「ミシガン郡が、もし子供がコロナに対して陽性反応を示したら、その両親を逮捕すると脅迫している」

「情報の自由！ サンディエゴ郡が、〈コロナについての誤った情報〉は、民衆の健康の危機だと宣言」

「イベルメクチン（アイヴァーメクチン）に対する悪口」

エリートたちは、彼らのバイオ兵器に対する、初期の治療法を、悪として破壊しようとしている。Ivermectin は、Covid-19 に対する闘争において、高い有効性を持つとされる初期の薬である。しかしワクチン産業は、Covid の悪党どもにとって、ブースター体制の莫大な財源なので、イベルメクチンに反対するプロパガンダは、容赦のない苛酷なものとなっている。

「法廷が病院に対し、死につつある男性をイベルメクチンで治療するよう命令」

オハイオ州シンシナティの女性は、夫が、Covid-19 による医学的に誘発された昏睡状態に陥っていたが、先週、訴訟によって、病院にスタッフに対し、イベルメクチン治療を施すよう命令された。

「公衆衛生局長が、命を救う治療に対し悪口を言う」

あなたの指導者はあなたに死んで欲しいのだ！ ——アメリカの公衆衛生局長 Surgeon General は、米連邦政府のために、公衆衛生問題の指導的な代弁者として働いている。ではどうして、副総監の Vivek Murthy は、公衆全体のための初期治療の便宜を無視して、ワクチン産業の完全な、Covid-19 疫病反応の支配のために行動したのか？ もし我々が、薬品業界のためではない政府を持っていたら、我々の選挙された役人たちは、その質問に答えられるだろう。

「〈今、イベルメクチンを使用すべき時だ〉と、東京都医師会長が、この薬を Covid 治療のために、すべての医者たちに推奨」

尾崎治夫博士は、多くの研究で効力のあることが証明されつつある、この薬剤を Covid との戦いのために、用いることを要望している。

「ヨーロッパの CDC がバイデン政府と分裂し、Covid ブースターの差し迫った必要はないと表明」

バイデン政府の、民衆への Covid ブースター注射強制の、慌ただししい決定は、2人のトップ・ワクチン統制官が火曜日に辞任した FDA のみならず、ヨーロッパからも反撃を受けている。FDA 役人の辞任は、ホワイトハウスに対する、この連邦機関の怒り、欲求不満、また悶着のあったことを示している。

「爆弾情報：WHO が、ビル・ゲイツやロックフェラー財団による、グローバルな、デジタル・ワクチン・パスポートを計画している」

マキアヴェリ的な、テクニカル・ガイダンスが計画され、諸政府が、全世界を通じて、デジタルの COVID 注射証明書を、人々に課することになっている。

以上、わずかな例だが、バイデン政権と対立する勢力が、次第に露わになってきたことがわかるだろう。ところでわが国はどうなのだろうか？ これまでの終始一貫した、わき目も振らぬ、このワクチン運動を観察してきた限りでは、わが国は、バイデン政権と、この最後の WHO 提案を、そのまま、世界のあり方の標準として、受け入れようとしているかのように見える。これは先日来、磁気を持つワクチンが出回っていることが判明し、これによって、にわかになんか警戒を強めたにもかかわらず、これは偶然であり、無害であるかのような広報が出たことから、推測できる。

我々は完全に愚民化されている。そうでないと断言する人々がいるだろうか？